

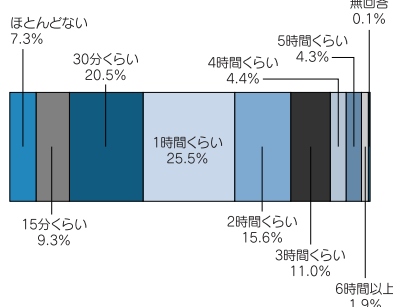
親子のコミュニケーション

VOL.16

内閣府が実施する調査に、「青少年の生活と意識に関する基本調査」というものがあります。

平成十二年に実施された第二回調査で、九〜十四歳の子どもを持つ親千五百人に、平日子どもと一緒にいる時間を聞いたところ、次のグラフのような結果になりました。

平日に子どもと過ごす時間



同じ調査で、父母の違いを比べてみると、父親では「十分くらい」が最も多く31.6%、「ほとんどない」という人も12.7%います。母親では、

「一時間くらい」(24.9%)、「二時間くらい」(23%)が多く、約半数を占め、父親が子どもに接する時間がいかに少ないかが分かります。

岐阜県では、これから結婚し、子どもを育てることになる若い人たちに、子育ての楽しさ、家庭を持つ喜び、親に対する感謝など、親子であることの素晴らしさを理解していただくことと、「親から子ども子どもから親への手紙コンクール」を開催しています。

小学生の部、中学生の部、一般の部の三部門があります。日ごろなかなか伝えられない親への気持ち、子どもへの思いを、この機会を利用してつづつてみませんか。

締め切りは九月三十日(金)。

応募要領など詳しくは、総合政策課(内線212)へどうぞ。

教育夢発信

下石小学校附属幼稚園 お点前体験から学ぶ

本園では、毎月第二火曜日に、お茶のお点前を体験します。お茶の先生は地域の方にお願ひし、最近失われていく礼儀作法を、お茶のお点前で少しでも学ぶことができればと取り組んでいます。

両手を付いてするお辞儀から始まり、「いただきます」「ありがとうございます」「お先に失礼します」など、互いを敬うあいさつのことばで終わります。

お茶を出したり引いたりするときの、抹茶茶碗の扱い方など、子どもたちは、戸惑いながらも真剣そのものです。子どもたちの楽しみは、和菓子です。懐紙を使っていたたく和菓子は、格別な味がするようです。



また、『織部・志野・天目』などそれぞれに出される抹茶茶碗を見て

「こつこつと、お父さんも作っているよ」と、下石の地場産業である陶器への関心にも、つながっているようです。



子どもたちは、一時間ほど正座してお点前を行います。

おかあさんすわりでえらかったけど、がまんできてよかった。
おまんじゅうをたべるとき、かみでうけてたべるのが、たのしかった。
おちやのせんせいがたてたまつちやは、あわがたくさんあっておいしかった。

まつちやをだしてあげたり、ひいたりむつかしかった。

こつした体験を通し、我慢強さ、思いやり、感謝の心、礼儀作法を学んでいます。